

e-ビーフNEWS 北の牧場から

December 2018

十勝の初冬

朝の気温も一段と下がり-5℃以下になる事もしばしば。日中でもひとケタ台 氷点下に近い数字です。初雪は20日遅くチラッと降りましたが、昨年のように根雪にはなっていません。シバシバだけが大地をヒシヒシと凍結させ、畑の土壌はガンガンにコンクリート状態になっています。畑家や山は黄土色の殺風景 枯れすすきが風にたなびいています。

畑はほぼ作業終了。最後に収穫されたビート砂糖ダイコンの大きなカブの山が畑に残っています。秋まき小麦の青々さとプラオされた茶色の畑のコントラストがパッチワークのようです。まだ放牧されている母牛群が、残った草を食べています。草丈がないので見晴らし良くだだダ広い放牧地に牛の姿が小さく見えます。

オオハクチョウたちが群を作りへの字になって今日も飛んでゆきました。収穫終わった畑では、つがいのタンチョウヅルが仲良く落ち穂拾いをしています。ほかのつがいは、置かれたばかりの堆肥の上でミミズをついばんでいました。今年は農作物は不作気味でしたが山のドングリも同様動物たちの厳しい冬が迫っていました。



活動のお知らせ

- 11月8日(木) 10:00～ 帯広 北海道畜産公社 第8回北海道肉専用種枝肉共助会
 11月8日(木) 13:00～ 帯広 帯広畜産大学 第15回資源循環型肉牛生産シンポジウム 2018 & 日本産肉研究会第22回学術集会
 テーマ:「家畜の福祉と肉牛生産」 160名参加
 意見交換会eびーふ大焼肉すきやきパーティー 学内逍遙舎 口田研究室協力90名参加
 現地検討会:11月9日(金) 大樹町 (株)坂根牧場 アニマルフェア認定酪農家 33名参加
 1月25日(金) 新得 道総研 畜産試験場 18年度第2回肉牛飼養技術研修会

NEWSばか読み

- 宮崎県家畜市場 雌子牛で上場前に白血病チェック 11/1:業界そろって撲滅に
- 資生堂、ユニチャーム日用品の国産で対中輸出拡大し工場建設 11/1:安心基本
- 商社各社 前期純利益 資源高で最高更新へ 11/1:原油高で庶民苦しみ
- 飲食無断キャンセルにキャンセル料請求へ 11/1:やばい!覚えておこう
- TPP11 12月30日に発効 農畜産物のほとんどの関税が撤廃 11/1:効いてくる
- コメ作況指数 全国99北海道90 11/1:そんなに悪かったんだ
- 理美容室や飲食店などの生前承継に許認可不要の法改正 11/2:規制があったんだ
- GPS衛生「みちびき」本格稼働 11/2:農業IT化本格稼働
- 関西電力「宅配ロッカー」電柱設置実験開始 11/2:電柱が多様性に
- セコマ アイスクリームや牛乳などPB製品を外販 3割増 11/2:末端から上手に
- 文科省 朝食取らぬ児童が増加 家庭環境の変化 11/5:親の教育不足
- 中国企業の伸びが大きく鈍化7-9月(7%前年23%) 11/5:トランプ効果
- ソフトバンク 6,800人を配置転換 通信部門から成長部門へ 11/6:企業の変化
- 農林水産省 中国のアフリカ豚コレラ 検疫の中国餃子で検出 11/10:加工品でも
- 中国 少子化で産児制限の撤廃で検討 11/10:中国も同じ問題膨らむ
- 食肉大手 中間決算原料高で売上増ながら減収 11/13:販売は好調なんだ

- 福岡農総研 和牛肥育で強化哺育粗飼料多給で2ヵ月短縮プログラム開発 11/14:うむ
- 農研機構(つくば)堆肥発酵熟成床暖房システム 11/15:持続課題
- インド首都デリー 地下鉄網拡大し東京圏を追い抜く 11/14:新興国の力まじまじ
- 農林水産省 米在庫増で需要予測 年8万t減で検討 11/15:減反か
- 内閣府食安 米国産牛の輸入規制撤廃でリスク評価 無視 11/16:ゆるむ
- 気象庁 エルニーニョ2年ぶりに発生 冬型気圧配置強まる 11/16:大雪ならないように
- ASIAGAPとJFS-Cの国際認証取得 海外同等性確保 11/17:
- 豪州産米 TPP11発効で国産新米前の来年7月から出回り 11/19:出し抜かれた
- 牛マルキン肉専5ヵ月連続で発動 11/20:じわりじわり生産費が伸びる
- 10月貿易原油高で4,500億円の赤字 11/20:底の浅い貿易立国
- セブンイレブン 東京神奈川でサラダ用のレタス植物工場建設 11/21:CB内製化
- 釧路港 国際ターミナル完成 飼料原料大型船入港可能 11/24:くその山
- 中国 アフリカ豚コレラで60万頭の処分 11/24:需要バランスが壊れる
- 天候回復で鍋食材野菜が値下がり傾向 11/25:いいことだ
- 農林水産省 水際で輸出禁止の和牛精液持ち出しストップ 11/26:裏をくぐる人がいるんだ
- 北海道広尾町酪農家 ドローン使い牛追い活用 11/28:ロボットの可能性広がる
- ヤンマーアグリ 初の自動運転の田植え機を発表 11/30:ロボット進化すむね

東京直近NEWS (11/30 Shi-REPORT)

ホルス

12月枝肉相場は高値維持。依然として出回り頭数は少ない状況。販売はスライス部位にシフトしており、肩ロース、ロイン中心にヒートしている。頭数が少ないが故にトモバラの問い合わせも多く引き合い強い。但し、枝相場は高値状況だが、部分肉の実売単価は枝肉に見合った価格まで上がっていない。季節的にスネの引き合い強まる予測もスネは弱い。決して販売状況が良く引き合い強い状況では無いが、頭数が少ないために問い合わせも多く余剰は無い。

経産牛

経産牛相場は高値安定。出回りも弱く、ガリ系も高値で歩留まり考えると割高。引き合いは特別強くないが、バラやヒレ、赤身までほぼ完売状況。肥育ものが高騰高値により、少なからず代替えとしての需要も出ている。挽き材は大きく需要増えていないが、産地の在庫が少なく値上げ基調。価格を上げると、輸入物にシフトする点も否めなく状況静観している。

左先生の畜産学研究NEWS

2018年の畜産の情報は3月の日畜大会時の公開シンポジウム日本産肉研究会学術集会シンポジウム、10月の北肉研シンポジウム、11月には環境リサイクル肉牛協議会と産肉研究会との共催でシンポジウムが開催され、それぞれの要旨集からは2020年東京オリンピック・パラリンピック選手村への食材調達基準に日本の畜産物で適合したものを世界にアピールし、日本産畜産物の海外進出を促進することを意識した活動が官民挙げて取り組まれている内容です。昨年5月に札幌で開催された東京オリンピック・パラリンピック競技大会における食材調達基準説明会ではオリンピックのレガシーとして持続可能性が強調されていましたが、JGAPやグローバルgapの認証を受けて生産された畜産物は基準を満たすものと認められることから今年の関心はJGAPや有機JAS認証や有機畜産物、農場HACCPの取組にあり、それらを促進する姿勢です。e-びーふNews60号の学術情報で現在入手分は以下の通りです。シンポジウムの詳細な内容は以前の解説と同様の趣旨であり、スペースの関係で掲載を割愛し、タイトルのみとします。

1. 日本産肉研究会第21回学術集会報告書

シンポジウム「2020年東京オリンピック・パラリンピックの先を見据えてー赤身牛肉生産に各種認証制度を活用するー」

シンポジウム1. 各種認証制度の概要と実例

- 1) 日本型畜産GAPの推進について(奥地弘明:農水省)
- 2) 有機JAS認証について(渡部英悦:農水省)
- 3) 農場HACCPの今後の展望(見学一宏:中畜)
- 4) 放牧畜産認証について(三上隆弘:日草畜種子協)

シンポジウム2. 有機JAS牛肉の流通(岩崎方保:マルハニチロ)

2. 北海道肉牛研究会大会 2018年10月31日-11月1日於: 北斗市農業振興センター

ー日本版畜産GAPの概要と肉牛農場の取組ー

- 1) 基調講演: 持続可能な畜産のためのJGAP認証-日本版畜産GAPの概要(朝日光久:日本GAP協)
- 2) 事例紹介: 日本版GAPと農場HACCPの取得について(大野泰裕:大野ファーム)

3. 第15回資源循環型牛肉生産シンポジウム・日本産肉研究会第22回学術集会2018年11月8日於: 帯畜大

ー家畜の福祉と牛肉生産ー

- 1) 基調講演: 家畜の福祉と肉牛生産(山本謙治:グッドテーブルズ)
- 2) 話題提供1. 欧州諸国の有機畜産とアニマルウェルフェア関連法との位置づけ(大山利男: 立大)
- 3) 話題提供2. アニマルウェルフェアの評価基準(瀬尾哲也: 帯畜大)
- 4) 話題提供3. 有機畜産の理想と現実(小野 泰: 北里大FSC)
- 5) 話題提供4. 大自然を家庭の食卓に「ボーンブロス・八雲」について(諸江栄美:ショップルルド)
- 6) 話題提供5. 赤身評価の最近情報(口田圭吾:帯畜大)

4. 日畜会報 89(4)423-430.2018.11

肥育牛用発酵TMR中の破碎粉米の割合が黒毛和種牛における飼料の摂取量,消化率,消化管通貨速度および窒素水痘に及ぼす影響(安部亜津子他,島根畜技セ)

平均8歳前後の黒毛和種経産牛4頭に飼料用米品種みほひかりを破碎処理した粉米にして0-21%まで配合飼料50%以上の発酵TMRに調製・給与し、消化率や窒素出納への影響を検討しました。窒素蓄積率は粉米割合14%が高く、摂取量は21%まで影響がなく、破碎粉米の配合は14%が適正と思われました。

国産牛 NEWS

話題提供1. 「欧州諸国の有機畜産とアニマルウェルフェア関連法制との位置付け」 全4回シリーズ①

立教大学経済学部 大山利男准教授



1. 有機認証とは何か

(1) 有機表示の必要性

なぜ「有機」表示をするのか?
自由に表示してはいけないか?
表示規制は必要か?

慣行生産 Conventional	無表示	認証 不要
有機生産 Organic	有機 表示	→ 認証

→ × (偽表示)

(2) 有機基準にはどのようなものがあるか

IFOAM (国際有機農業運動連盟) : 「IFOAM基礎基準」
コーデックス委員会 : 「有機表示ガイドライン」
米国 (農務省USDA) : 「NOP基準」 + Organic Seal
欧州連合 (EU) : 「EU有機規則」 + EU Leaf
欧州各国 : AB (フランス), BIO (ドイツ), Bio Knospe (スイス) など
日本 (農林水産省) : 「JAS規格」 (有機農産物, 有機加工食品, 有機畜産物, 有機飼料) + 有機JASマーク

その他

【参考】IFOAM基礎基準 「有機生産および加工の基本目的」

- ・質の高い食料を十分な量生産する。
- ・発酵的で生命力を高める方法で、自然界のシステム及びサイクルと相互作用し合う。
- ・有機生産および加工がもたらす、より広い社会的、生態的なインパクトに配慮する。
- ・微生物、土壌動物相、植物及び動物を含む農業システム内の生物学的循環を促進する。
- ・価値のある持続的な水生生態系を展開させる。(つづき)

(つづき)

- ・土壌の長期的肥沃度を維持増進する。
- ・植物生育地および野生生物生息地の保護を含む、生産システム内およびその周辺の遺伝的多様性を維持する。
- ・水、水資源および水中に住む全ての生き物の健全な利用および適切な保護を促進する。
- ・地域的に組織された生産システムにおいて、再生可能な資源をできるだけ使用する。
- ・作物生産と畜産の調和のとれたバランスを創出する。
- ・作物生産と畜産の調和のとれたバランスを創出する。
- ・全ての家畜に対して、彼らの生来の行動習性に配慮した生育条件を与える。
- ・あらゆる形の汚染を最小にする。
- ・再生可能な資源を使用して生産物を加工する。
- ・完全に生分解可能な生産物を生産する。
- ・長持ちし、良質な繊維を生産する。
- ・有機生産および有機生産物加工に従事するすべての者に対して、基本的ニーズが満たされ、適切な収益と、安全な労働環境を含む仕事からの満足感を得られるように、生活の基本条件を満たすことを認める。
- ・社会的に公正であると同時に生態系に責任を負う、有機生産、加工、流通の一貫した体系を達成する方向にすすめるものである。

内容を詳しく知りたい方は、データ送信しますので事務局までご連絡ください